



令和最初の年ももうすぐ終わり、長岡の師走。先日から雪も降りだした。去年は小雪の印象が強く、今年はほどよく雪国らしい風情を味わいたいと思っている。Uターン6年目の冬。

東京にいたのは、大学と社会人生活、合わせて8年間。もう数年で帰郷してからの時間の方が長くなるが、20代と今、30代の時間の流れは大分違う。仕事も責任も重くなってきたしその分難しさもやりがいも大きい。プライベートでは結婚もしたし、祭や消防団の活動にこそしんで、地元にごっぶり浸かった生活を送っている。一言でいうと楽しい。

平成から令和へ。田植え時のあぜ道で、草木のにおいを嗅ぎながら新しい時代を地元で迎えられたことを、実に幸せに感じる。かつて、東京行き上りの新幹線の車窓から、うらめしく眺めた長岡の街並みの中で、今を生きている。同じく長岡市内で働く妻と待ち合わせて、時には行きつけの店へ。飛び交う長岡弁をBGMに箸も会話も弾む。帰り道、例えば大手通りで仕事先のお客さんに声をかけてもらったり、偶然幼なじみに出くわして立ち話をしたり「自分に必要なものは全部長岡にある気がするなあ」と思ったりする。

Uターンを考えていたころ、自分がいだいていた漠然とした不安感は何だったのだろう。すぐには思い出せなくなってきた。地元で過ごす日常は、今は本当に穏やかで落ち着いていて、希望に満ちている。今朝の気温マイナス1度。凍り付いたフロントガラスにかけるぬるま湯を「ほれ」と差し出してくれる母に、感謝しながら仕事に向かえる日常を幸福に感じる。